

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400248		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム 元気村 1ユニット		
所在地	半田市南大矢知町2-42-13		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2372400248-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るいきらびに利用者様の歌声や楽しい笑い声がいっぱい聞こえるにぎやかなグループホームです。職員もベテランが多く頭をつかったり、手や足を使った運動など毎日のレクリエーションをとて工夫しています。
また、食事についても季節の行事食を楽しんだり、おやつも毎日ではないが職員と手作りをしています。健康面についても利用者様のちょっとした変化を感じ取り医療との連携に繋がっています。
ご家族の希望があれば看取りに関しても対応させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が長期化したことで、利用者の外出や家族を含めた外部の方との交流が困難な状況が続いていたが、運営法人の検討を通じて、利用者の外出や外部の方との交流が徐々に再開しており、以前のような生活に戻していく取り組みが行われている。当ホームでは管理者が交代しているが、前管理者も引き続きホームに勤務しており、現管理者と意見交換や連携を行いながら利用者や家族に対する様々な支援及び職員との個別面談等の取り組みが行われていることで、今までと同じような支援が行われている。また、当ホーム隣りの敷地に関連事業所(ふれあいハウス)が移転しており、両事業所が通路でつながっている。両事業所で合わせて4名の夜勤職員が勤務する体制がつけられており、職員が少なくなる夜間に非常災害等が発生した際にも迅速に対応することができる体制につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の出勤時確認ができるように玄関先やタイムカードのところに理念や目標を掲げミーティング時話し合いをし年度末には運営推進会議にてご家族にも報告をしている。	利用者が毎日の生活をゆったりとした気持ちで自由に過ごすことができるような生活を目指した理念を掲げ、職員間での共有を行っている。また、職員が目標をつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的開催している運営推進会議に民生委員の方に参加していただいたり、地域主体の協議会に参加し地域のかたに施設の状況や認知症に対する理解が得られるように務めている。	感染症問題が長期化していることもあり、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、地域で行われている協議会にホームからも職員が参加する取り組みが行われている。外部の方との交流については、徐々に再開していく方針でもある。	ホーム建物の隣りに関連事業所(ふれあいハウス)が移転してこともあり、事業所間で連携した地域の方との交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方が集まる場には参加するようにし認知症への理解を深めていただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的開催できるようになってきているので職員にも交代で参加し、家族や他の機関の人と意見の交換ができるようにしている。	会議についても今年に入り本格的に再開しており、地域の方や市職員が参加する等、関係者との定期的な情報交換の機会にもつながっている。また、家族にも参加を呼びかけており、家族との交流も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村からの情報提供メールは必ず確認し研修会などには積極的に参加していく。また窓口訪問時には直接情報の交換をする。	市担当部署とは、定期的及び随時の情報交換の機会がつけられており、ホームの運営への反映につなげている。また、市内の医療、介護事業所との連絡会にホームから職員が参加しており、市の医療、福祉施策への協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体での委員会や研修・勉強会に全職員が参加し理解を深めるようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、両ユニットを開放する等、閉塞感のない生活環境をつくる取り組みが行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会や職員研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や勉強会に参加するだけでなく施設に戻り自分たちの介護を見直すように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今まで成年後見人を利用されていた方もいたので、どの職員も知識を高めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	資料を用いてわかりやすく説明し、解らないところは何度でも聞いていただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にご意見を頂戴したり、利用者様の様子報告時にも個別に話を伺う。	運営推進会議に多くの家族が参加しており、定期的な交流の機会がつけられている。管理者が交代しているが、前管理者も勤務していることもあり、家族からの要望等に柔軟に対応している。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング時に職員の意見・提案を聞き、個人面談も年に1回行っている。	毎月の職員会議や職員間での日常的な情報交換の機会をつくり、管理者が把握した職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員との個別面談を現管理者と前管理者が分担して実施し、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に人事考課を行い仕事をしていく上での支障や各自の目標を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修だけでなく、法人外の研修にも職員が公平に参加できるように勤務を作成する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内外の研修に参加し交流・情報交換がスムーズにいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人を取り巻く人々から情報を収集し職員間で共有し、ご本人の希望や不安を解消できるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	じっくりと家族の話を聞き取り抱えている不安や困っていることを把握し、こまめに連絡をとり少しでも解消できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	得ている情報から何を一番に優先するのかを支援の在り方や方向性を考えて他の職員と情報共有しより良い対応になるように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護をさせて頂くときには必ず確認をし同意を得るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族には状態変化の報告を常に行い職員とともに本人を支えられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会も徐々にできるようになり、来やすい環境や雰囲気づくりをしている。	ホームでは、運営法人の検討を通じて徐々に外部の方との交流を再開しており、利用者の友人との面会や家族との外出等、入居前からの関係の方との交流の機会にもつながっている。また、身内の方の葬儀に出かける機会も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様の個性を見極めスムーズな交流が出来るように職員が間に入り環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご希望があれば電話等必要に応じて相談を受け支援をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員を担当制とし一人一人利用者様の傾聴に努め本人の希望を聞き出すように努力している。	職員間で利用者を担当する取り組みや日常的な情報交換等を行い、利用者一人ひとりの意向等の把握につなげている。また、管理者が計画作成担当者でもあることで、随時のカンファレンスを実施し、利用者や家族の意向等を日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の面会時などに昔の様子を聞き取り利用者様の生活歴を確認している。		
25		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活している様子を確認しながら他の職員と情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者がモニタリングを行い計画作成者やミーティング時に他の職員と意見交換しより良いプランができるように努めている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、ライフサポートプランの様式を活用しながら、一人ひとりに合わせた計画がつけられている。日常的にも記入用紙を使い分けながら記録を残し、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子をこまめに記録し他の職員との情報の共有ができるようにし計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の状況も様々なので状況に応じ臨機応変な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	市町村の地域資源を把握し適切な資源を活用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診で日々の身体状況を確認し、必要時他の医療機関を紹介し情報を提供している。	運営法人と連携した医療機関による支援が行われており、定期的な訪問診療をはじめ、医療面での随時の支援が行われている。また、前管理者が看護師でもある利点も活かしながら、協力医との情報交換や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の職員が不在時には速やかに法人内の看護師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関に速やかに情報の提供を行い、その後もソーシャルワーカーなどと連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	予め家族の意向は確認しているが、気持ちの変化もあり得ることから事業所の方針や行えることを理解して頂けるよう説明を随時している。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、利用者の中には医療面での連携を深めながらホームでの看取り支援が行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、意向等に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修や勉強会で知識を身に付け実践で対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に利用者様と訓練を行い意識づけ法人研修でマニュアルを確認し連携を図っている。	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等の取り組みが行われている。運営法人の関連事業所と連携しながら、地域の方との関係づくりも行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	当ホームに隣接している関連事業所（ふれあいハウス）との合同の避難訓練を予定している。非常災害を想定した事業所間で連携した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員がお互いに注意しあうよう努めている。	運営法人の基本理念と共に「職員心得三カ条」には、職員による利用者への対応に関する基本的な考え方が掲げられており、職員間で共有する取り組みが行われている。支援が困難な利用者に対しても、その方に合わせた支援を行う取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の一方向的な支援にならないよう本人の希望を聞き取る力を身に付け、根気よく聞く傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設として大まかなスケジュールはあるが、自由に安全に生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人に確認しながら、好みを踏まえてその人らしさが発揮できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	安全に食事ができるように食事形態を考慮したり、行事食では季節が感じられるように工夫し、共同で作ることもしている。	食事については、外部業者も活用しながら提供が行われているが、ホームでも調理やおやつ作り等を行う機会がつくられており、その際には、利用者もできることに参加している。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は管理栄養士が作成しているが、ご飯については体重を考慮している。水分については特に夏場はこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声かけをしなるべく自分で行ってもらっているが、その後職員が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人の日中・夜間の排泄のパターンを把握し、なるべく自分でできるように支援している。	利用者の排泄記録を残し、日常的な申し送り等を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレを基本に排泄支援が行われており、看護師による医療面での支援も行いながら、利用者の排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のチェックをおこないながら、水分量にも注意し施設内でできる運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	身体状況に応じ入浴方法を考慮している。入浴剤や季節感のある菖蒲湯・ゆず湯も楽しんでもらっている。	入浴については、利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、時間も午前と午後を実施している。入浴を拒む方にも声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。また、季節等にも合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	現状、入浴設備に制約があることで、利用者の入浴についても制約が生じている状況でもある。運営法人とも連携しながら、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	集団生活だがなるべく今までの生活のペースで暮らせるように聞き取り支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員一人一人が内服薬や外用薬を正しく理解したうえで服薬介助を行うよう務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様一人一人が役割を持つことができるように支援し感謝の言葉を忘れないように務めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	少しずつ面会や外出が可能となってきている。家族にも協力を依頼している。	季節や天候等にも合わせながら利用者がホームの外に出る機会をつくっているが、現状は限られた範囲となっている。運営法人の検討を通じて家族との外出が可能になったことで、家族と出かけている方が徐々に増えている段階でもある。	感染症問題が長期化したことで、利用者の外出の機会が限られた範囲となっている。今後に向けて、外出行事の機会を増やす等、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの利用者様が施設管理となっているが、外出時などに使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	声を聴くだけで安心する利用者様もいるので家族に了解を得て電話をかけている。手紙については季節ごとレクなどで書くことを取り入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適な空間となるように細かくエアコンを調節し、壁の飾りつけなどで季節が感じられるように工夫している。	リビングの広さは限られているが、両ユニットを開放することで、利用者が閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、リビングの壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等が掲示され、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	好きな時に自室に行けるよう、部屋ばかりに閉じこもらないよう声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室にはなじみのあるものを持参してもらっている。ベットから写真・絵などがみられるよう工夫している。	居室には、利用者の意向等にも合わせて、その方の趣味の物や好みの物を持ち込んでいたり、シンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドが備え付けとなっており、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様一人一人の残存能力を活かし達成感が得られるよう支援している。		